

オブジェクト指向技術による パッケージへの取り組み

東洋ビジネスエンジニアリング株式会社

羽田 雅一

hane@it.to-be.co.jp



販売・生産・物流管理システム構築における問題点

- パッケージシステムを導入する場合
 - ⊙ 開発コストの縮小／開発期間の短縮化
 - ⊙ 業務の標準化（BPRの道具としての活用）
 - ⊙ 製造／流通業における業種／業態の違い
（生産形態、販売形態、移管方法、重点管理ポイント）
 - ⊙ 現場レベルの工夫・改善を反映
 - ⊙ カスタマイズの限界
- オーダメードでシステム構築する場合
 - ⊙ 顧客に適したシステム
 - ⊙ 開発コストの増大／開発期間の長期化（バックログ）
 - ⊙ 業務の標準化
 - ⊙ システム技術のフォローアップ



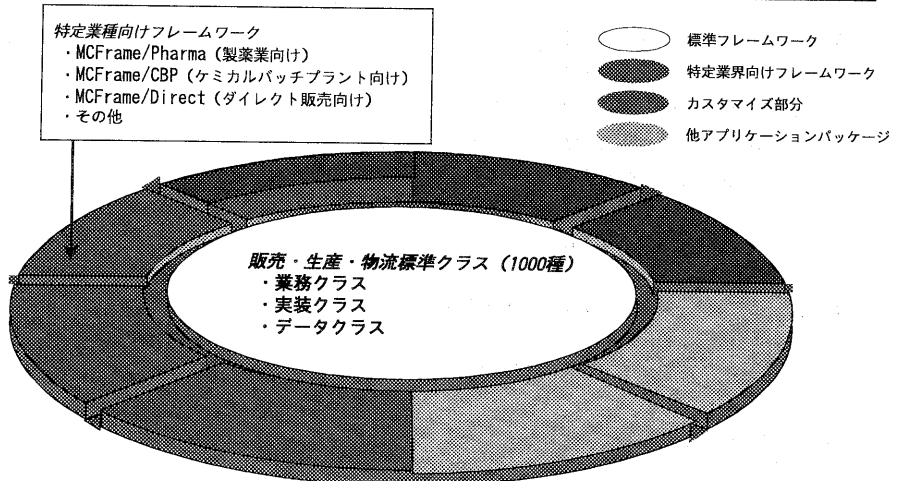
MCFrame とは

- 東洋ビジネスエンジニアリングが開発したオブジェクト指向の販売/生産/物流統合フレームワーク
- 販売/生産/物流管理システムの基本機能を標準フレームワークとして提供し、ユーザ独自の部分を短期間にカスタマイズ
- パッケージシステムとオーダーメイド（一品作り）システムの中間の位置付け
- MCFrame開発の経緯／現行バージョン
 - 開発着手 : 1994年9月
 - リリース時期 : 1996年4月
 - MCFrame3.30(クライアント・サーバ型)
 - > 標準版
 - > 製薬版(ICORE3.01)
 - MCFrame4.0(Web対応型/JAVA環境)
 - > 販売・物流管理機能(1999年10月)
 - > 生産・原価管理機能(2000年3月リリース予定)



-2-

MCFrameの構成



-3-

効率的なカスタマイズを実現する為に

■ システムの部品化

- システム機能/データをクラスという単位で部品化
==>オブジェクト指向技術の全面的な採用
- 部品を組み合わせることにより、お客様に最適な形で提供可能

■ FrameManager

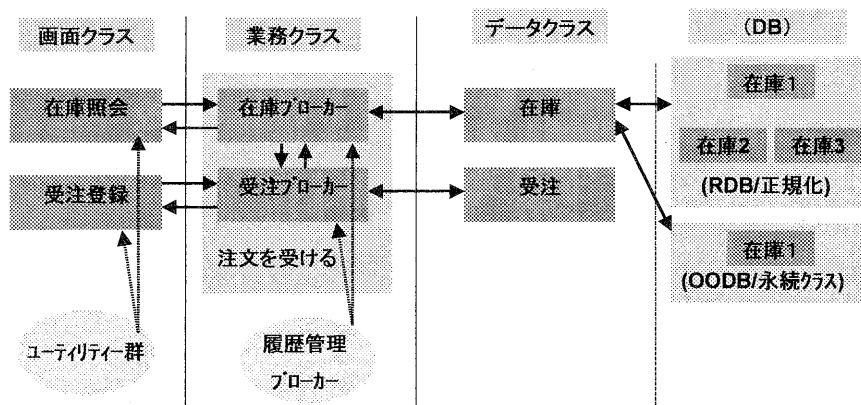
- システム構築支援ツール
 - ・画面の自動生成
 - ・部品の再利用促進機能
 - ・部品のバージョン管理
 - ・部品修正時の影響度探索
 - ・プロジェクト別クラス管理機能 他

→SterはFrameManagerを使って、ユーザ向けのカスタマイズを実施

→ユーザーの半数以上も、FrameManagerを利用し自社でEUCを実践

-4-

MCFrameのアーキテクチャー



-5-

オブジェクト指向技術採用によるメリット・デメリット

■ メリット

- ◎ 開発生産性の著しい向上
 - ＞東洋ビルディング・エンジニアリング/MCFrame/パートナーでの507プロジェクト強の事例にから
- ◎ メンテナンス性の著しい向上
 - ＞プロジェクト担当者以外のメンテナンスが可能
- ◎ 全くノウハウのない新人の立ち上りの早さ

■ デメリット

- ◎ 現クラス構成/属性をある程度習得するまでのジレンマ
 - ＞FrameManagerである程度解消
- ◎ 「あり合せ」文化圏で育ってきたプログラマの習得の困難さ

